

ふるさと奥尻通信

平成29年1月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

昭和30年代頃まで「竹スキー」というものがあった。割った竹の先端を内側に曲げ、靴に引っ掛けて滑る子供の雪遊び道具である。安価で子供の小遣いで買える程度のものだった。

特集 スキーの歴史

年が明けまして、ウインタースポーツの季節です。奥尻島にもスキー場がありまして、毎年にごわっています。奥尻は北海道でも南に位置していますので、真冬でも冷え込みが弱く、しばれませぬ。こうなると、スケートリンクは造れませんので、必然的にスキーをすることになります。

奥尻のスキーの歴史を紐解きますと、その始まりは昭和25年頃にさかのぼりますが、当時はちょっとした斜面を滑って遊ぶ程度で、子供たちはもっぱら竹スキーをして遊んでいたようです。その後、昭和35年(1960)頃には愛好者が冬山に登っておおの適当な場所を探しながら滑っていました。一方、島の最高峰神威山に駐屯する航空自衛隊基地内では、隊員の訓練のためにスキーを行い、同38年には競技会が行われています。一般島民にはあまり普及していなかったものの、自衛隊員の中には一定のスキー人口があったこととなります。同40年頃には、教育委員会主催で町職員や教員の協力の下、スキー遠足や講習会が開かれるなど、次第に町民の間にもスキー熱が高まってきました。



スキーをする子供 昭和32年



自衛隊基地内でのスキー訓練風景



スキー大会にパフォーマーも参加

野外で食べるお昼は美味しい

現在の斜面を利用することになった切っ掛けは、今では考えられないことですが、たまたま中央線を滑り降りてきたスキーヤーが、偶然にもその好適地を発見したことによります。この緩斜面は街場にも近くスキーに最適という判断がなされ、当時の畦地清一教育長に整備を要望することになりました。こうしてこの緩斜面は「桜ヶ丘スキー場」として整備され、現在に至っています。

昭和45年(1970)に「スキー友好会」(真壁恭士会長)が設立され、同47年にバジテストを開催、同50年には第1回町民スキー大会が開催されました。この頃はまだ自力で登って滑り降りる状況でした。その後、同53年にスキーロッジが完成し、友好会の名称も「スキー愛好会」に変更されました。昭和59年に待望のロープ塔が完成、同62年には宝くじ助成にて大型照明灯2基(パンザマスト940W×3個)を設置し、スキー場の機能が整いました。

平成4年(1992)には、太いロープを両手で掴んで登っていたロープ塔に変わり、腰にバーを当ててよっかかる簡易リフト(通称Tバー、スイス製)が完成し、握力の無い児童でも登るのが容易になりました。震災後の同10年には斜面を大規模に整地し、排水機能を強化して現在の姿となりました。

スキー場の管理やスキー大会の運営は、専属の管理人の他、元々中心的に動いていた愛好会員のいわゆる手弁当で補ってきた経緯があり、関係者の協力なくては成り立ちません。近年は温暖化のためか、2月でも雨が降るような状況で、良好なゲレンデを維持することが難しくなっています。町民みなさんのスキー場として、末永く大切に使いましょう。



第1回スキー大会 昭和50年 自力で登る頃



照明灯設置状況



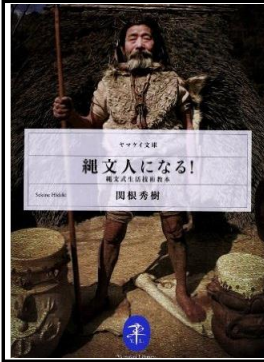
ロープ塔設置状況



簡易リフト設置状況 平成4年



昭和11~13年頃(1936~38)の奥尻地区のご婦人方です。旦那さん方は皆さん島の要職にありました。前列左より、白針、大下チサト(医者夫人)、亀沢、煮雪奥小校長夫人、加賀谷商店の奥さん、深谷キン(料理屋)、木村清紹(乾清寺先代の弟。後の町議)。中央が澳津神社神主夫人の小野トキ(長く島内で産婆をした人。昭和29年離島)。後列左から西里(質屋)、沖口タケ(助役夫人)、上埜ハナヨ(後の町長夫人)、畝本たみ子(薬局)、松田村長夫人、増永サヨ(収入役夫人)、鶴本郵便局長夫人、津山ハナ(後の村長夫人)、木村レツ(乾清寺先代の母)。新年の集まりか何かの記念に写したものでしょうか。時代的には中国との戦争が始まった頃で、次第に召集される軍人の姿も多くなっていきました。



学芸員オス
スメの一冊を
ご紹介しま
す。本は海洋
研修センター
図書室で借り
られます。

縄文人になる！ 縄文式生活技術教本 関根秀樹

ライターやマッチの無い状況で、さあ火を起こしてみなさい、と言われても大変困ります。ボタンを押しながら生きている現代人では不可能でしょう。それが、この読本で可能になります。他にも石器や土器の作り方、住居の解説など、衣食住に関わることが網羅されています。ちょっとした知恵、というよりも、生きるための技術、技量を身に着けることができます。

月刊 奥尻のつり 1月号

年が明けまして、今月末までがマイカ漁の漁期です。この時期に取れるイカは"ボーナスイカ"と呼ばれています。漁期の最終盤ですから、獲れる年もあれば、ぜんぜん獲れない年もあるからでしょう。今期は道南地方全体でイカの水揚げが少ない分、獲った分の売り上げが大きいようで、収益もあがっているとのこと。一方、期待されているサクラマスの回遊はイマイチのようで、空振りが多く見られます。ルアーマン曰く、「ルアー釣りは空振り(ボウズ)が基本である」とのことですが、魚の食いが粗い時期に合わせて大漁するエサ釣り(真冬はお休み中)とは好対照です。釣れない釣りなんて考えられないのですが、エサ釣りの立場からしてみれば、それだけ奥尻島は魚影が濃い(時期がある)のでしょう。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第17回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

くが働くをうに前 ぞうい賊のてだやくおて
すってな行な、達。や。るを兵い。る母い眼
るてって。：これ。っ。洗隊る小と鈴さんたを
為もいててこ朝鳥こ。っ。奥っさ。さ入木。さ。覚
にる行いれら賊そ。金尻たん昨いりさ。モま
な立様くるだかつ鳥を島りも日子混ん手ッし
。つんん。生け賊取は、帰供じの籠コたら
ぞ動だだ今臭勉つ。一さもって達っ人をら
く、。此く強け。く。い懸たりもて持負う
こへまそのなへ勉。い懸り今来出皆そっ
つこの船だう実っ強。る命り日たて一のてっ
づ島か身ら際てののんにやか田手生他走たに
くをら体生の稼所へだ、っら谷伝懸ゴっ隣着
良上が臭事ご お こて鳥内っ命 てのい

待氏理れあ支銀漁メ庫合信
さと事てる店行協イが併用一
れい長いこがなのン誕し金月
てうがまと、どマバ生、庫二
いこ奥すか役でリンし道と三
まと尻。ら場すンクま南函三
すで町ま住内がバはしう館日
。、出た民に、ン江たみ信り
活身、に派役ク差。街用、
躍の現親出場、信島信金、
が藤在し所前郵金民用庫江
期谷のまがに貯、の金が差

道南うみ街信金誕生



進水式当日の様子

祝店議にのすりエネはセま総船
い長会はド。エビ属、奥しトの建
まな議、ツービネのユ尻たん第
しど長奥ク月ネの学リ。型七中
たが、尻で二が垂名科でそ〜九の
。出フか行十自種で植すのの四
席ェらわ七生で、物。名名番造
しり町れ日しあ島でカも称船船
、一長たにてるにあラ、が三
船会夫進尾いオはる「方決六海
出社妻水道まクナエセラシ定五
を支、式市 シツビ ンシ〇造

船名はカラッセ奥尻

が根読ををす年入のははでた。
た気め思書。を学道ちす。新年
か強まいく入迎。によ。平年も
つくせ出の学えの進む早成も
た教んしが時るでみどいの早一
でえでまやはこ、ま平も世一
す。と仮にうた元で二
。片だ名なす(年す十
、担仮つでりぐ小にね九
あ任名た名ま三学学。年
りははの前 十校問私目し

新衣之記録(編集後記)

営はた械雪れしなでノ開十キ
お感化ふですすし始六一
しおがさみもるのがもし日場一月
まむあれ作、必で、しまよが十四
すねりて業今要、元ビしり一四
。三まだがまが部々るた。イオ部日
月すい部であ分がを。イオ部日
十。ぶ分人りの整導今ターより
日ス樂的力まに地入年一ブ桜
頃キににだす地用しは營ンケ
ま一なもつ。なでたス業し、
で場つ機たそらはの も ス

スキー場オフィス



東日本海フェリー時代の硬券